

வணக்கம்

スリランカ通信 No. 5

平成 29 年度青年海外協力隊

和田さとみ

環境教育

Satomi Wada
சதோமி வடா

வணக்கம்(ヴァナッカム=こんにちは) எப்படி சுகம்? (エツパディ スガム? =元気ですか)
和田さとみです。ちょっと遅れましたが、புது வருஷம் வாழ்த்துக்கள் (プドウ バルシャム
ヴァールトゥツカル=新年あけましておめでとうございます)スリランカには独自のカレンダーがあり(この国
の新年は4月になります)よって1月1日は祝日でしたが、2日からは通常通り、仕事も学校も何事もなかった
かのごとく始まります。みなさんは 2018 年、どんなスタートでしたか。



Batticaloa Kallady Ladies Collage の児童と

協力隊日記① 環境教育ワークショップ

1月より、環境教育の活動が本格的にスタートしました。私たちが捨てるゴミにどのような環境
問題が潜んでいるか、そしてどう解決していったらいいかを考えてもらうワークショップです。
「自分で気付く」ことは、すべてのはじまりだと思っています。

「気付いて、自分事として考える」

これがワークショップのねらいです。

① 学校職員・児童生徒対象



要請のあった学校を訪問し、学校にど
んな環境問題があるかを事前に観察・記
録しています。ワークショップでは、児
童生徒に校内のゴミの問題に気付いても
らい、ゴミのポイ捨ては悪いことだと伝
えます。ゴミの分別指導では、児童生徒
だけでなく、学校の先生方にも体験して
もらいます。この日は校長先生も見学し
てくださったので、ゴミ箱の中のゴミが
正しく分別されているかを確認してもら
いました。体験する

ことが自分事として
考える第一歩だと
思っています。



② 政府関係者・職員・労働者対象



配属先の要請を受け、事前に対象となる
職員の職場や地域を視察し、公民館や地域
のホール等でワークショップを行っていま
す。政府関係者や職員には、日本に対する
印象(高い技術を持つ、メイド・イン・ジ
ャパンの製品は信頼性が高い、など)を聞
きつつ、高度経済成長と共にあった、忘れ
てはならない廃棄物の問題や公害問題を伝
えています。彼らが仕事で関わる場所に潜
む環境問題を、日本が歩んできた歴史を通
して、考えてもらい
今何ができるかを
話し合います。



③ 主婦・保護者対象



保育園や地域のコミュニティセンター
を訪問し、毎日家事に勤しむ主婦層を対
象にワークショップを行っています。主婦や
保護者の方には、毎日家庭で出るゴミにつ
いて質問し、それらが自然分解されるまで
にどのくらいの年数がかかるかを考えて
もらいます。新聞紙は1ヶ月、生ゴミは3
ヶ月・・・分解される順番にゴミのカード
を並び変えてもらいます。小さな赤ちゃん
の紙おむつは・・・分解されるのに 450
年!これには毎回驚か
れます。家庭で出る
ゴミをどう減らせるか
考えます。



協力隊日記② アップサイクルの企画提案

環境教育で欠かせない話の一つに3Rがあります。(①Reduce=減らす、②Reuse=繰り返し使う、③Recycle=再資源化する) この優先順位で廃棄物の削減に努めるのがよい、という考え方です。アップサイクルとは持続可能なものづくりの新たな方法論のひとつで、リサイクルと異なり、元の製品よりも次元・価値の高いモノを生み出すことを言います。私は以前からこのアップサイクルに興味があり、また幼少時期からものづくりにも興味があったので、現在、環境教育啓発ワークショップの傍ら、配属先のパティカローア市役所の近隣にあるパティカローア郡部政府機関で、内戦やスマトラ沖地震で家族を亡くした被災者に対してアップサイクルの研修企画提案をしています。これは、緑のソーダペットボトルを切って火で炙って作ったピアスと、サリーにつける花のブローチです。ちょっと時間のあるときに、廃棄物を資源にして、新しい次元のものづくりの提案の準備をしています。

これは、私の個人的な意見ですが、啓発活動だけではゴミはなかなか減らない、と思っています。それは「環境に悪い」とわかっているけれど、ポイ捨てしてしまう、レジ袋をもらってしまう…啓発活動で人間の弱い部分に訴えかけますが、継続的に、または法整備等行わなければ、いずれは風化してしまうでしょう…。わたしは、経済の仕組みを利用した環境の取組みが必要だと考えています。日本では、スーパーの買い物袋を一時的に有料化した取組みがありました。それからマイバッグが定着しはじめた、という背景があります。有料化や、アップサイクルのような「買いたい」と思ってもらえるようなユニークな新しい次元のものづくりは、廃棄物を効果的に削減する有効的な手段だと考えます。もちろんマーケティングの基礎知識が必要になるので、ターゲットの選定など、一緒に活動している現地の職員と共に試行錯誤しながら、ゴミの削減の取組みを提案していきたいと思っています。

- ※オレンジの台紙の試作品は、廃紙を丸め、マニキュアを塗ってビーズにしたピアス
- ※ピンク色の台紙の試作品は、縫製屋でもらった布の切れ端で作ったシュシュ
- ※むらさきの台紙の試作品は、ソーダ瓶の王冠で作ったヘアゴムバンド



スリランカの豆知識：学校ってどうなってるの？



ムスリムの学校の児童



ヒンドゥの学校の児童

教育制度

スリランカの教育制度は5・4・2・2制で、初等教育5年の後、中等教育（前期4年と後期2年）があり、全国統一試験 0 Level Test (= オーレベルテスト)を受験します。試験の合格者だけが高校に進学でき、高校2年の後、大学進学資格となる A Level Test (= エーレベルテスト)を受験します。スリランカ国内には15の国立大学があります。大学進学はかなりの難関で進学率は15%。一部生徒は海外の大学に進学するほか、専門学校や職業訓練校で就職に必要な技術を身につけています。

宗教ごとの学校

スリランカはシンハラ族とタミル族、ムスリムが住む多民族国家で、言語も文化も土地によって異なる、ということは以前お伝えした通りですが、学校もまた民族（シンハラ・タミル・ムスリム）、宗教（仏教・ヒンドゥ教・キリスト教・イスラム教）ごとに存在します。シンハラ圏は大多数が仏教信仰者なので、仏教の学校が多く（男女共学、男子校・女子校もある）、タミル圏では、ヒンドゥ教・キリスト教・イスラム教（男子校・女子校に分かれている場合が多い）の学校が多いです。学習する科目の中に、「宗教」があることでは、日本と大きな違いがあります。



では No. 6 で会いましょう！

国際協力に興味のある人は 独立行政法人国際協力機構 (JICA) <https://www.jica.go.jp/> をチェック！